

第2回 下水道管路の包括的民間委託検討部会	
日 時	令和2年6月15日(月) 10:00~11:00
開催場所	神奈川中小企業センタービル 14階多目的ホール
出席者	滝沢部会長、川北委員、高橋委員、原委員
欠席者	鴨志田委員
開催形態	非公開
議題	1 『横浜市中大口径下水道管路施設包括的維持管理業務委託』について 2 その他
議事	<p>開 会</p> <p>1 下水道計画調整部長挨拶</p> <p>○横浜市 下水道は新型コロナウイルスの影響で衛生的な生活環境の基盤として改めて注目されている。また、幹線下水道の適切な維持管理を持続させることができ、市民に安心して利用いただけるよう議論をお願いしたい。</p> <p>2 下水道管路部長挨拶</p> <p>○横浜市 新型コロナウイルスの影響を受け、第2回検討部会が延期されたが、来年4月の契約を目指すというスケジュールは見直さない方向で検討を進めている。本日の検討部会では、業務内容及び公募資料について説明するので、忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p>3 資料確認</p> <p>○事務局 資料1「横浜市中大口径下水道管路施設包括的維持管理業務委託」について。資料2「第1回検討部会 議事録」</p> <p>4 委員の紹介</p> <p>○事務局 5名中4名の委員が出席のため、本日の検討部会は成立。</p> <p>議 事</p> <p>1 「横浜市中大口径下水道管路施設包括的維持管理業務委託」について</p>

○事務局 資料1「横浜市中大口径下水道管路施設包括的維持管理業務委託」に基づき説明。

○高橋委員 計画清掃を市で実施することになった経緯は (P8)。

○事務局 サウンディング調査の結果から、計画清掃を包括業務の対象外とした。今回の業務は詳細調査に主眼を置いて重点的に行う業務であること、φ800mm未満の小口径管渠に対して実施している清掃で十分に清掃ができているため、今回の対象である中大口径管に汚砂等が行き届く手前で処理されていると考えられることから今回の包括委託の業務対象外としている。

○高橋委員 現在の市での体制でまかなえるという判断でよいのか。

○事務局 平成30年から個別委託で中大口径管の詳細調査を実施しているところであり、今後包括を開始してからの状況を踏まえて検討していきたい。中大口径管ではそれほど汚砂量は発生していないのではないかと推測や、実際に調査を行った際のボリュームが予測不明なことから、今回のように判断した。

○高橋委員 資格要件、緊急修繕でランク不問となっている意味は (P24・P27)。

○横浜市 横浜市では、市発注土木工事の入札参加資格のある業者をABCの3段階の等級(ランク)に格付けしている。今回はそれら土木業者の体力等に鑑み、どのランクの業者でも問題がないという判断でランクを不問とすることとした。

○事務局 緊急修繕の内容も、中大口径本管の内部に入って修繕をするものもあれば、マンホールを修繕するものもあり、修繕の内容は千差万別であり、どのランクでどの修繕ができるかについて設定することが困難であることから、今回はランク不問として対応することとしている。

○原委員 WTOは対象外ということで良いのか (P21)。

○事務局 下水道管路保守等については、WTO対象外であるが、現在、最終確認をしている。

○原委員 雇用期間3か月というのはどういうことを確認する認識でいるのか (P27)。

○事務局 入札のために後付けで雇用するなどとしておらず、入札参画時点で雇用関係があることを確認したいと考える。

○滝沢部会長 入札の時に、既に3か月間の雇用実績があるということである。合わせて、一時的な雇用ではなく、期間に定めのない雇用であることとしている。

○川北委員 緊急的業務については、陳情・苦情だけではなく、災害等(洪水や地震)による対応も含めているのか (P10)。

○事務局 そうである。

○川北委員 統括・マネジメント業務のデータベース化というのは、データベース設計も含めているのか (P11)。

○事務局 現在の想定では、システムを作るというよりは報告書として提出する必要がある委託成果について Excel ベースで整理したものを簡単にデータとして取りまとめていただく内容を想定している。

○滝沢部会長 包括的委託であるにも関わらず、仕様発注とのことであるが、これまで個別発注していたものをまとめて発注することから包括的ということの問題なのか。

○事務局 そうである。

○滝沢部会長 修繕業務は積算が難しいとされていたが、発注金額はどのように考えるのか。

○事務局 平成 30 年度に実施した業務結果を踏まえて、工事金額の上限を定めることを想定している。契約形態についても現在確認中であるが、1 件ずつの工事内容も異なることから、1 件ずつ協議をしながら精算したいと考えている。

○滝沢部会長 仕様発注とあるが、緊急修繕等の内容については業者の判断の余地があるのか。

○事務局 仕様発注であるため、企業の創意工夫が難しいとは考えている。実施の可否やその内容については、横浜市と協議のうえで決定したいと考えている。修繕工事の対応方法は複数考えられるので、企業体のなかで検討してもらうことを想定している。

○滝沢部会長 包括的委託で発注を予定しているので、そのメリットを出せるようにして欲しい。1 件ずつ確認するということでは、これまでとあまり大きく変わらない。調査して確認された異常箇所についてまとめて資材発注や人員確保をすることができると作業の効率化について民間企業にも創意工夫ができるような余地は残しておくべきである。どういう部分が仕様に該当して、民間の創意工夫がどのように出せるのかを検討いただきたい。包括的にまとめて発注することで、効率的な運営ができることから、技術提案等でもその観点を求める必要がある。包括で発注するのであれば、完全な仕様ではなく民間事業者の創意工夫を活かせるようにして欲しい。

関連機関との調整についてであるが、横浜市の他局・他機関との調整を民間事業者が行うということになれば、他局・他機関にも十分に周知をしておく必要があると思うので、市の内部の体制についても検討いただきたい。

業務責任者 1 名と各業務の責任者は違うと思うが、両方とも責任者であり、業務責任者と副業務責任者、現場責任者と多くの「責任者」が出てくるので、今後の発注にあたり違いが明確に分かるようにして欲しい。

○原委員 役割分担にも関係するものであるが、JV の構成員が 4 社以上という点については、業務ごとに別々の業者が受託することを想定していると思うが、1 社が全業

務を担い一部分（例えば緊急修繕業務）が4社ということでも問題ないのか。

○事務局 可能である。ただし、どこかから業務責任者を出してもらう必要がある。各業務での役割分担が明確になっていることが重要であると想定している。

○原委員 各業務の責任者が全員一緒でも問題ないのか。

○事務局 問題はないが、技術提案のなかで評価をしたいと考えている。どういった企業構成ができるのかを現在シミュレーションを実施しているが、どういった提案が可能か、またどのような評価が可能かについて検討を進めているので、次回の部会で検討いただきたい。

○川北委員 市内企業の参画を検討されているが、市内企業が担う業務量ではなく企業数を重視しているということか。

○事務局 多数の市内企業の参画をしてもらうことや横浜市の業務実績によって評価したい。

○川北委員 実際には業務量が全くない場合も想定されるが、企業数だけではなく市内企業が担う業務量も含めて検討すべきではないのか。

○事務局 業務量・質について評価するための基準を検討する必要があると考えている。1社が全ての業務を担うことも想定されるので、しっかりと検討を進めていきたい。

○滝沢部会長 評価基準は次回の部会だけで決めるのはかなり厳しいと思うので、以下の事項については十分に事前に検討して欲しい。

- ・業務経験が重複して出てくるので、整理をすること。
- ・評価項目「業務実施方針」の内容に業務の理解度とあるが、具体的に示す必要がある。
- ・業務提案で業務全体の効率化という観点も必要である。
- ・セルフチェックはセルフモニタリングと同じなのか。
- ・プレゼンテーションは評価項目として必要なのか。

○原委員 以下の事項については十分に事前に検討して欲しい。

- ・業務体制、業務実績の採点方法は明確にして欲しい。
- ・ワークライフバランスが挙げられているが、プロジェクト自体に関係しない点を考慮するのであれば、他の視点（例えば、環境に対する配慮や、サステナビリティ等）も必要ではないのか。
- ・プレゼンテーションは評価項目として必要なのか。

○高橋委員 定量化できるものと定性的なものと混同されているので、明確にすべき。

○滝沢部会長 評価項目と評価格点とのバランスも非常に重要である。

	<p>2 その他</p> <p>○事務局 次回の検討部会は、令和2年8月12日午後を予定している。</p> <p>閉 会 〔議事終了〕</p>
<p>資 料</p>	<p>資料1 『横浜市中大口径下水道管路施設包括的維持管理業務委託』について</p> <p>資料2 第1回検討部会 議事録</p>